

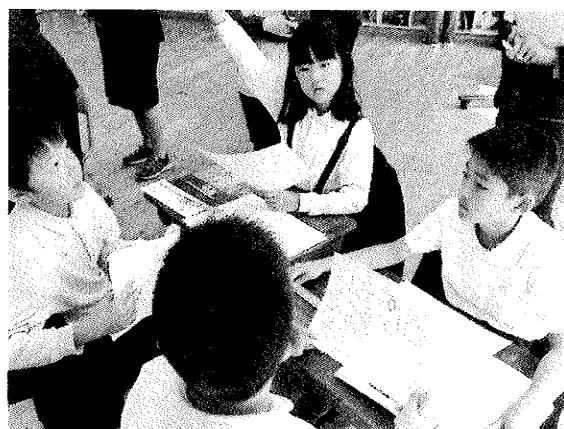
令和元年度 研 究 集 録

＜研究主題＞

かかわり合い、深め合いながら

自らを高め続ける児童の育成

～確かな言語能力を育成する国語科教育を通して～



岩国市立美和西小学校

校内研修計画

研究主題	かかわり合い・深め合いながら、自らを高め続ける児童・生徒の育成 ～確かな言語能力を育成する国語科教育を通して～																	
研修の経過・主題設定の理由	<p>(1) 研修の経過</p> <p>少子高齢社会、科学技術の発展やグローバル化等により、子どもたちを取り巻く社会環境が著しく変化している。人工知能の進化等により、近い将来には現在人間が行っている様々な仕事が機械に代替されると言われている。そのような社会において、これから子どもたちに必要とされるのは、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、課題を解決する資質や能力である。</p> <p>本校の児童は、明るく素直な子どもたちである。目の前の課題に対して一生懸命に取り組むことができる。しかし、自ら考えて主体的に行動することや自分の思いを言語を用いて相手に的確に伝える力がまだ不十分なことが課題にあげられる。また、全国学力状況調査および学力確認問題の結果から、文章から必要な情報を読み取る力が不足していることが明らかになった。</p> <p>昨年度の研修では、国語科の授業改善を重点項目として、「児童の関心意欲をかきたてる学習課題の設定」「児童の考えを深め、広げる第2次の学習の展開の工夫」「振り返りの場の設定の工夫」の3つの視点で取り組んだ。単元でつきたい表現力を明確にした単元構成を工夫することで、児童の表現意欲や表現力を高めることができた。また、「岩国市小中一貫教育に係る確かな学力推進研究事業」の指定校を受け、総合的な学習の時間や学習規律などで小中一貫のカリキュラムを作ることができた。</p> <p>(2) 主題設定の理由</p> <p>昨年度までの課題として、小中一貫校として「発問の工夫」という共通課題で取り組んだが、各小中学校での研究内容となり、同一の視点での取組とはなっていないことがあった。今年度は、各小中学校の課題である「言語能力の育成」を小中合同の研究主題として取り組みたい。</p>																	
及び研究の立仮て説	<p>主題に迫るために、以下の仮説を立てて、検証していきたい。</p> <p><仮説></p> <p>9年間の系統的な言語能力育成カリキュラムを生かした授業に取り組むことで、読解力・表現力を高めることができるであろう。</p> <p><研究内容></p> <ul style="list-style-type: none">○ 9年間の系統的な言語能力育成カリキュラムを作成する。○ 国語科において、つきたい言語能力を明確にした単元構成を考える。○ 3つの視点で授業改善を図る。<ul style="list-style-type: none">・考えを広げたり、深めたりする発問の工夫・対話を通して考えを深める場の工夫・着実に知識・技能を定着させる振り返りの工夫○ 先進校の視察と復伝を通して、研究の深化を図る。○ 美和中学校、美和東小学校の教員とカリキュラム作成、教材研究等をする。○ 児童生徒の交流等、異年齢交流による言語能力向上の効果を評価する。	<table><tr><th colspan="5">言語能力の育成</th></tr><tr><td>カリキュラム</td><td>9年間の育成</td><td></td><td>める言語能力を高める授業</td><td>プレゼン等の体験的表現活</td></tr><tr><td colspan="5">相手を尊敬する心と態度</td></tr></table>	言語能力の育成					カリキュラム	9年間の育成		める言語能力を高める授業	プレゼン等の体験的表現活	相手を尊敬する心と態度					
言語能力の育成																		
カリキュラム	9年間の育成		める言語能力を高める授業	プレゼン等の体験的表現活														
相手を尊敬する心と態度																		
研修計画	<p>【研修内容】</p> <p>(1学期)</p> <p>5/29 研究主題の共通理解 研修計画</p> <p>6/12 9年間の言語能力育成カリキュラム検討</p> <p>6/28 指導案検討</p> <p>7/10 研究授業</p> <p>(夏期休業中)</p> <p>7/22 人権教育研修 特別支援教育 網紀保持研修</p> <p>7/23 情報教育年間指導計画作成 ICT実技研修</p> <p>7/24 外国語研修 モジュール作成</p> <p>7/25 美和授業スタンダード研修 指導案検討</p> <p>8/21 小中合同研修会</p> <p>(2学期)</p> <p>9/25 指導案検討(発表資料作成)</p> <p>10/9 発表会準備(3年、5年)</p> <p>10/29 小中一貫に係る確かな学力推進研究事業発表会</p> <p>11/23 研究発表会の振り返りと復伝研修</p> <p>11/27 人権教育(いじめ)</p> <p>(3学期)</p> <p>1/15 言語能力育成カリキュラム等、小中一貫カリキュラムの見直し</p> <p>1/29 研究紀要作成</p> <p>2/12 今年度反省と次年度の研修について</p>																	

R 元年度 研究の経過

日にち	研修内容
4/ 3(水)	校内研修 プロジェクト会議「1年間の取組の計画」
5/29(水)	校内研修 「R元年度研究主題について」 小中一貫教育研究推進委員会（5／28）の復伝
6/12(水)	校内の3部会で9年間のカリキュラムを検討 小中連携教育研修会（会場：美和中学校）
6/20(木)	小中連携教育研修会会場：美和中学校 授業公開・3部会で9年間のカリキュラムを検討
6/28(水)	校内研修 指導案検討
7/10(水)	校内研修 授業研究・研究協議 ★研究授業 1年生（藤井教諭）
7/22(月)	校内研修 情報教育研修 綱紀保持研修
7/23(火)	校内研修 特別支援研修 総合的な学習の時間の年間計画
7/24(水)	校内研修 人権教育研修
7/25(木)	校内研修 フラッシュカード作成 3部会カリキュラム検討
8/21(水)	小中連携教育研究会（会場：ハーモニー美和） 3部会のカリキュラムの完成及び共通実践すべき重点項目の協議
8/29(水)	校内研修 指導案検討
10/ 9(水)	校内研修 指導案検討
10/29(水)	小中一貫教育に係る確かな学力推進研究事業発表会 ★研究授業 3年生（永富教諭） ★研究授業 5年生（西本教諭）
11/13(水)	校内研修 土堂小研究発表会視察の振り返り
1/14(水)～ 1/28(火)	交換授業 全学年
1/15(水)	校内研修 指導案検討
1/29(水)	校内研修 授業研究・研究協議 ★研究授業 2年生（池田教諭）
2/12(水)	校内研修 「来年度の研究主題について」 「モジュール学習・公開授業・交換授業の振り返り」
2/25(火)	小中連携教育研修会（会場：美和東小学校） 「来年度の研究主題・部会別協議」
3/23(月)	校内研修 モジュール学習の模擬授業 プロジェクト会議「1年間の振り返り」

第1学年国語科学習指導案

令和元年7月10日（水） 5校時

場 所 1年 教室

指導者 藤井 昭則

研究主題

かかわり合い、深め合いながら、自らを高め続ける児童の育成
～確かな言語能力を育成する国語科教育を通して～

- 1 単元名 おはなしをよんで、じんぶつのようなすをそうぞうして、げきをしよう。

教材名 「おおきなかぶ」（東京書籍1年・上）

2 言語活動とその特徴

本単元では、第1学年及び第2学年「C 読むこと」の言語活動例「イ 読み聞かせを聞いたり物語を読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。」を受けて、「おおきなかぶを読んで、登場人物の様子を想像して、劇をする。」ことを主たる言語活動として位置づけた。ここで行う劇とは、音読と動作化を意味している。この物語は6つの場面から構成され、場面が進むごとに1人ずつ加わってかぶを引っ張るという展開は音読や動作化に適しており、事柄の順序をわかりやすくおさえることができると考える。このことにより、本単元でねらう「C 読むこと」の指導事項「エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。」が実現できると考えた。

また、劇をした後で、登場人物の行動や心情などを伝え合ったり、感想を述べ合ったりすることで、「A 話すこと・聞くこと」の指導事項「エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。」も実現できると考えた。

3 単元について

（1）児童観

本学級の児童は、読み聞かせが好きであり、本と一緒に見て語り合うなど、楽しんで読書をしている。5月に「あめですよ」や「とんとことん」で、絵と文章を結んでお話の大体をつかむことや、音読しながらお話のおもしろさを味わうことを学習してきた。また、6月に「ぶんをつくろう」「どうやってみをまもるのかな」などで、主語・述語を意識して文を読み書きする学習をしてきた。言葉をもとに場面の様子を想像し、言葉で表現できる児童がいるが、書かれていることから離れて場面の様子を気ままに思い浮かべてしまう児童や、内容や感想を言葉で表現することができない児童も見られる。そのため、言葉をもとにして場面の様子を明確に捉える力や分かったこと・感じたことを表現する力の向上を図っていく必要がある。

（2）教材観

本教材は、登場人物の行動と会話のみで書かれており、人物が増える度に場面が展開していくため、1年生でも場面の様子がとらえやすいと思われる。登場人物の心情

は書かれていないため、そこを想像して読む楽しさもある。「うんとこしょ，どっこいしょ。」というかけ声や，「・・・が・・・をひっぱって」という繰り返しの表現がリズムをつくり出しており，音読の楽しさを実感することができると考える。繰り返される言葉の意味の変化に着目し，場面の様子を明確に捉える力を高めていく上で適した教材であり，本単元の学習を通して，児童は言葉をもとに場面の様子に着目して人物の行動について想像を広げる読み方を学ぶことができると考える。

(3) 指導観

- 音読発表会や並行読書のやり方を知らせ，学習計画を提示することで，見通しをもって学習ができるようにする。
- 単元を通して音読や劇を行い，登場人物の行動を目に見える形で表現させることで，場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えることができるようにする。
- 劇の後，演じた児童と見た児童同士でわかったことや感想を共有することができるようにする。
- 表現の順序や繰り返しに着目させることで，物語の読み方を理解できるようにする。
- 一人学びの時間を確保し，ワークシートに自分の考えを書くことができるようにする。書かれていないことを想像することが難しい児童には，いくつかの選択肢の中から一番よいと思うものを選ばせるようにする。

4 単元の指導目標

- 物語の中の主語と述語の関係に注意して読んだり，書いたりすることができる。

(言葉の特徴や使い方に関する事項 (1) -カ)

- 劇をしたり文章を読んだりして，感じたことや分かったことを交流することができる。

(A 話すこと・聞くこと (1) -エ)

- 場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像することができる。

(C 読むこと エ)

- 物語の表現のおもしろさを感じるとともに，思いを伝えようとしている。(学びに向かう力，人間性)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・音読や劇を通して，主語や述語の関係に気付いている。 <p>(1) -カ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・劇の後，演じた児童と見た児童同士で感想を述べている。 ・場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し，劇で演じている。 <p>(話・聞エ) (読エ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の出てくる順のおもしろさや，繰り返し出てくる表現などを楽しみながら，音読したり，劇をしたりして，思いや考えを伝えようとしている。

6 単元の指導計画（全10時間扱い）

次	時	主な活動	評価			評価規準	評価の方法
			知	思	学		
第一次	1	○「おおきなかぶ」の好きなところをグループで音読発表会をするという学習の見通しを持つ。 ○第10時の活動を見通して、興味のある本を並行して読み進める。	○		○	・音読発表会に興味を持ち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 ・場面や登場人物の様子に着目しながら、大体の内容を捉えている。	観察 発表
	2	○劇をするときに必要な役を考え ることを通して、会話文や地の文、語り手について理解する。		○		・劇をするにはどんな役が必要かを考えることができる。	観察 発表
第二次	3	○1・2・3場面を読み、おじいさんを演じたり、感想を伝えたりして、音読を工夫する。	○	○		・おじいさんの行動を具体的に想像し音読を工夫している。 ・主語と述語の関係に気付いている。	観察 発表
	4	○おじいさんがおばあさん呼びに行き、一緒にかぶを引っ張る場面を読み、登場人物を演じたり、感想を伝えたりして、音読を工夫する。	○	○		・動作化を通して、登場人物の行動を具体的に想像し、音読を工夫している。 ・主語と述語の関係に気付いている。	観察 発表
	5	○おばあさんが孫を呼びに行き、3人でかぶを引っ張る場面を読み、登場人物を演じたり、感想を伝えたりして、音読を工夫する。	○	○		・動作化を通して、登場人物の行動を具体的に想像し、音読を工夫している。 ・主語と述語の関係に気付いている。	観察 発表
	6	○孫が犬を呼びに行き、4人で一緒にかぶを引っ張る場面を読み、登場人物を演じたり、感想を伝えたりして、音読を工夫する。	○	○		・動作化を通して、登場人物の行動を具体的に想像し、音読を工夫している。 ・主語と述語の関係に気付いている。	観察 発表

第 三 次	7	○犬が猫を呼びに行って、 5人で一緒にかぶを引っ張る場面を読み、登場人物を演じたり、感想を伝えたりして、音読を工夫する。	○	○	・動作化を通して、登場人物の行動を具体的に想像し、音読を工夫している。 ・主語と述語の関係に気付いている。	観察 発表
	8	○猫がねずみを呼びに行つて、6人で一緒にかぶを引っ張る場面を読み、登場人物を演じたり、感想を伝えたりして、音読を工夫する。	○	○	・動作化を通して、登場人物の行動を具体的に想像し、音読を工夫している。 ・主語と述語の関係に気付いている。	観察 発表
	9	○好きなところを選んで、役割を分けて読んだり、動作を取り入れて読んだりする。		○	・音読発表会で好きなところを工夫して音読している。	発表
	10	○自分が選んだ本の好きなところを音読して紹介し合う。		○	・自分が選んだ本の好きなところを分かりやすく友達に紹介したり、友達の紹介に興味を持って聞いたりしている。	発表

7 本時の指導（7/10時）

（1）本時のねらい

犬とおじいさんが何と言ったかを話し合うことを通して、音読を工夫することができる。

（2）準備物 挿絵（掲示用）、ワークシート

（3）本時の展開

過程	学習活動・内容 予想される児童の反応	○指導上の留意点 ☆評価
つかむ 10分 ／	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時の学習を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時におじいさんが言ったこと <p>2 本時場面を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの登場人物がしたこと 	<p>○ 前時の学習の最後に行った、おじいさんが言ったことについての吹き出しの内容を紹介し、おじいさんの言ったことを想起させる。</p> <p>○ だれが何をしたかを確認することで、主語と述語の関係を捉えられるようにする。</p> <p>☆ 主語と述語の関係に気付くことができたか。（発表）</p>
深める 25分 ／	<p>3 犬が猫を呼びに行った時の様子を役割演技することで、犬は何と言ったかを考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつもきみとけんかをするけど、今日は手伝ってよ。 ・かぶを食べられるから、力を合わせてよ。 ・みんなが困っているから、助けてよ。 </div>	<p>○ 教師が猫の役をして、「だれが育てたかぶなの。」「どんな大きさのかぶなの。」「何人で引いたの。」の3点を聞き返し、今までの展開を順序よく捉えられるようにする。</p> <p>○ 「普通は、犬と猫は仲がよくないですよ。」と揺さぶる問いをし、ペアで考えさせ、ワークシートの犬の吹き出しに記入させる。</p>
高める 10分	<p>4 かぶを引っ張る動作化を通して、おじいさんが何と言ったかを考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5人でやっても抜けない。 ・次はだれを呼んでこようかな。 ・みんなの力をもっと出さないとぬけそうにない。 </div> <p>5 本時の学習で分かったことを振り返り、まとめの劇をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うんとこしょ。どっこいしょ。」は、5人の声をそろえて大きい声で読むこと 	<p>○ 5人でかぶを引っ張る様子を動作化させ、気持ちを1つにして引っ張っている様子を捉えることができるようにする。</p> <p>○ 演じた児童と見た児童で気づきを発表させ、感じたことを共有できるようにする。</p> <p>○ ワークシートの吹き出しにおじいさんが言ったことを想像して記入させる。</p> <p>○ 本時に読み深めたことを振り返り、「うんとこしょ。どっこいしょ。」を工夫して読むことができるようにする。</p> <p>☆ 登場人物の行動を具体的に想像し、音読を工夫することができたか。（観察）</p>

8 考察

(1) 考えを広げたり、深めたりする発問の工夫

【成果】

- ・自分の考えを持って発表できるようにするために、ワークシートに登場人物の言葉を想像して記入する時に、困り感のある児童にヒントカードを渡した。そのヒントの中から自分で考えを選んで発表することができたので、児童は達成感を味わうことができた。

【課題】

- ・犬と猫は、仲がよくないのに助け合っていた。「そうまでして力を合わせてかぶを抜きたい。」という強い気持ちがあることに気づくことができなかった。「どうして仲がよくないのに、犬は猫を連れてくるのでしょうか。」と発問する等の工夫が必要だった。
- ・犬と猫の話をした後で、犬とおじいさんは、何と言ったのかという流れになったので、児童が戸惑っていた。全体の流れを説明した後でめあてを書くなど、児童がこの時間の「めあて」に向かう手立てが必要だった。

(2) 対話を通して考えを深める場の工夫

【成果】

- ・動作化して対話する場面では、思っていることを相手に伝わるように説明することができていた。また、犬が猫にお願いするときに、質問を変えたり、答えを変えたりする工夫が見られた。
- ・動作化した側と見る側の感想、アドバイスの観点を印刷して、常に確認することで、自分の考えを持たせて発表することができた。

【課題】

- ・発表内容を板書した所にネーム板を付けると、「〇〇さんと同じで（違って）～です。」という発表の仕方につながり、考えが深まったのではないかなと思う。
- ・児童の意見や動作を教師が見取り、「どこがよかったと思いますか。」「どこが違いましたか。」と振り返らさせる声かけを行い、出てきた意見を教師がつなげていくと、児童の考えを深めることができたと思う。



(3) 着実に知識・技能を定着させる振り返りの工夫

【成果】

- ・振り返りで、もう一度動作化する際に、1グループは、「声の大きさをそろえて読む」ことが深まっていたので、動作化が読みを深める手段として役立ったと思う。

【課題】

- ・2回目の役割演技が「うんとこしょ。どっこいしょ。」の部分が工夫して読めていなかったグループもあったので、声や姿勢等の音読を工夫する声かけをするとよかった。
- ・教室掲示の中に、今回の児童の意見をプラスして記入していくとよかった。振り返ったり、次の時間につなげたりすることに役立つと思った。

第2学年国語科学習指導案

令和2年1月29日（水） 5校時

場 所 2年 教室

指導者 池田 康成

研究主題

かかわり合い、深め合いながら、自らを高め続ける児童の育成
～確かな言語能力を育成する国語科教育を通して～

1 単元名 大事な言葉や文を読み取って、文章を書こう

教材名 「あなのやくわり」（東京書籍2年）

2 研究主題との関連

本単元では、第1学年及び第2学年「C 読むこと」の言語活動例「ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。」を受けて、「読み取ったことをもとにして、身近にある『あなのやくわり』について考え、説明する文章を書く。」ことを主たる言語活動として位置づけられている。身近にある物が本教材の中で取り上げられており、児童は自分の経験と結び付けて穴の役割を読み取ったり、考えを広げたりする。そのためには、大事な言葉や文を見付ける力が必要になる。このことにより、本単元でねらう「C 読むこと」の指導事項「ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」と「オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」が実現できると考えた。

また、本教材を読み終わった後に、身近にある穴の役割について調べたことを「始め」「中」「終わり」の3つの構成にまとめ、説明する文章を書いていく。そのことで、「B 書くこと」の指導事項「イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」も実現できると考えた。

3 指導の立場

（1）児童観

本学級の児童は、説明文の内容の読み取りに意欲的である。5月の「たんぽぽ」の学習では、事柄や時間の順序に気を付けて読み、たんぽぽの花や根などの特徴について正しく読み取ることができた。しかし、11月の「ビーバーの大工事」では、大事な言葉や文を探す学習について行ってきたが、意図した文ではなく他の文に着目するなど、重要な部分を見つけれられていない児童が見られる等の課題もある。また、事柄や時間の順序に気を付けて読む力を活用しながら、文章の内容と自分の経験とを結び付けて読む経験はまだ十分でない。そのため、大事な言葉や文を見付けながら教材文を読み、読み取ったことと自分の経験を結び付けながら自分の考えをまとめていく力を身に付けていくことが必要である。

（2）教材観

本教材は、身近にある穴のあいている物に目を向けさせ、その穴の役割を問いかけ、説明している文章である。文章は大きく「始め」「中」「終わり」に分けられ、「中」では4つの事例を挙げている。また、事例を説明する順序が、「穴があいている物や穴の位置、大きさ」、「穴の役割」、

「詳しい説明」になり、児童が手がかりにしやすいものとなっている。「穴の役割」については、まずその目的から、「何のためにそうになっているのか」ということが述べられ、その後の詳しい説明で、「なぜそうするのか」ということが述べられている。よって児童が大事な言葉や文を探すことに適した教材であるといえる。

(3) 指導観

そこで、指導にあたっては、以下の点に留意したい。

- 穴の役割や穴があいている理由などを板書に図で整理することで、事柄の順序を視覚的に捉えることができるようにする。
- ワークシートを生かして文章の構成を読み取るとともに文章を書くときの手助けとする。
- 単元を通して、読み取った内容を整理したものを教室内に掲示していくことで、常時振り返ったり、他の穴の役割と比較したりしながら、考えられるようにする。
- 「～ための」や接続詞、指示語に着目させ、本文に傍線を引くことで大事な言葉や文に意識させる。

4 単元の指導目標

- 主語と述語の照応関係に注意して、つながりのよい文章を書くことができる。

【言葉の特徴や使い方に関する事項―カ】

- 穴の位置や穴があいている理由などについて、大事な言葉や文を見つけながら読むことができる。

【C 読むこと(1)―ウ】

- 文章の内容と自分の経験を結び付けながら読み、穴の役割についての自分の考えをまとめて発表することができる。

【C 読むこと(1)―オ】

- 穴の役割について考えたことを、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えて書くことができる。

【B 書くこと(1)―イ】

- 説明する文章を書くことに意欲的に取り組もうとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の照応関係に気をつけて穴の役割を説明する文章を書いている。 <p style="text-align: right;">(1) ― カ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・穴があいている理由について、大事な言葉や文を見つけながら読んでいる。 <p style="text-align: right;">(読カ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある穴の役割を考え、構成や事柄の順序を考えて文章に書いている。 <p style="text-align: right;">(書イ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・穴の役割について説明する文章を書くことに、積極的に取り組もうとしている。

6 指導計画（全14時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点（・） 言語活動の充実のための指導（㊟）	評価規準 【観点】〔方法〕
第一次	1	・身の回りの穴の役割について考え、説明する文章を書くということ知り、見通しをもつ。	・身の回りの穴について紹介し、予想や疑問を持たせ、学習に対する意欲付けを行う。	【主】身の回りにある穴のあいている物に関心を持ち、穴の役割について考えようとしている。 〔発言・行動観察〕
第二次	2	・教材文を「始め」「中」「終わり」の3つに分け、大体の内容を捉える。	・まず「始め」と「終わり」を確かめ、その上で「中」に書いてあることを捉えさせる。	【読】教材文を読んで、大体の内容をつかみ、「始め」「中」「終わり」の構成を捉えている。 〔ノート・発言〕
	3	・50円玉の穴の役割を読み取り、穴があいている理由を考える。	・1文目では穴のあいている物とその位置、2文目では穴の役割、3文目以降では詳しい説明が述べられていることを確かめ、説明の仕方を捉えさせる。 ㊟「～のためのあな」という表現に着目させ、穴の役割を正しく捉えさせる。	【読】50円玉に穴があいている理由について、大事な言葉や文を見つけながら読んでいる。 〔発言・プリント〕
	4	・プラグの穴の役割を読み取り、穴があいている理由を考える。	・説明の順序を確かめ、説明の仕方を捉えさせる。 ㊟「～のためのあな」という表現に着目させ、穴の役割を正しく捉えさせる。	【読】プラグに穴があいている理由について、大事な言葉や文を見つけながら読んでいる。 〔発言・プリント〕
	5	・植木鉢の穴の役割を読み取り、穴があいている理由を考える。	・説明の順序を確かめ、説明の仕方を捉えさせる。 ㊟「～のためのあな」という表現に着目させ、穴の役割を正しく捉えさせる。	【読】植木鉢に穴があいている理由について、大事な言葉や文を見つけながら読んでいる。 〔発言・プリント〕
	6 （本時）	・しょうゆ差しの穴の役割を読み取り、穴があいている理由を考える。	・説明の順序を確かめ、説明の仕方を捉えさせる。 ㊟「～のためのあな」という表現に着目させ、2つの穴の役割を正しく捉えさせる。	【読】しょうゆ差しに2つ穴があいている理由について、大事な言葉や文を見つけながら読んでいる。 〔発言・プリント〕

第二次	7	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験と結び付けながら、書かれていることを確かめ、感想を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「始め」「中」「終わり」の文章構成を確かめ、「中」に書かれた穴の事例を、自分の経験と結び付けながら捉えさせる。 <p>◎教材文を読んで考えたことだけでなくもっと知りたいと思ったことなども伝え合わせる。</p>	<p>【読】教材文に書かれていることを自分の経験と結び付けて考えながら読み、感想を伝え合っている。</p> <p>〔発言・ノート〕</p>
	8 9	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある穴の役割について調べ、文章に書くことを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に穴があいているいろいろな物についての資料を作成しておく。 文章に取り上げたい物について、どんな物か、どこに穴があいているか、その穴の役割は何か、詳しい説明を整理させる。 	<p>【読】教材文を読んで考えたことをもとに、身の回りにある穴の役割を考えている。</p> <p>〔ノート・発言〕</p>
第三次	10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> 穴のあいている物について説明する文章を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 「中」の事例部分での説明の順序を確かめさせ、自分で文章を書く際にも活用できるようにさせる。 <p>◎書いた文章を互いに読み合い、よいところや直すところをもっとよくなる点などを伝え合わせる。</p>	<p>【書】身の回りにある穴のあいている物について、その穴の役割を考え、構成や事柄の順序を考えて文章に書いている。</p> <p>〔書いた文章〕</p> <p>【言】主語と述語との照応関係に注意して、つながりのよい文章を書いている。</p> <p>〔書いた文章〕</p>
	13	<ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を学級で紹介し合う。 	<p>◎発想や目の付け所の面白さ、穴の役割や、穴があいている理由が分かりやすく書かれているかどうかなど、評価し合う具体的な観点を示す。</p>	<p>【読】身の回りにある穴について自分の考えをまとめ、発表し合っている。</p> <p>〔発言〕</p>
	14	<ul style="list-style-type: none"> 学習を振り返って、分かったことや身についたことを確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の内容や説明の仕方に関する感想を改めて考えさせ、自由に発表させる。 <p>◎教材文を読んで学んだことを生かして、身の回りの物について説明の文章を書いた経験の感想を発表させる。</p>	<p>【読】単元の学習を振り返り、分かったことや身についたことを確かめている。</p> <p>〔ノート・発言〕</p>

7 本時の指導

- (1) 目標 大事な言葉や文を見つけたり、ワークシートにまとめたりする活動を通して、しょうゆ差しに2つの穴がある理由を読み取ることができる。
- (2) 準備 学習計画表 ワークシート しょうゆ差し
- (3) 展開

過程	学習活動・内容 予想される児童の反応	教師の働きかけ(○) 言語活動充実のための指導(◎) ◆評価
つかむ5分	1 前時の内容について振り返り、しょうゆ差しの書かれている⑤段落を音読する。	○学習計画表から、本時の学習課題を確認させる。 ○前時までと違い、2つの穴の役割について述べていることを押さえる。
つなげる30分	しょうゆさしはなぜ2つのあながあいているのだろう。	
	2 しょうゆ差しの穴の役割を読み取る。 ・穴のあいている物 ・2つの穴のそれぞれの役割	◎これまでの事例と同じ「～のためのあな」という表現に着目させ、2つの穴の役割を正しく捉えさせる。 ○「～なので」や「ですから」に着目させて、本文に傍線を引くことで、大事な言葉や文に意識させる。 ○穴の役割や穴があいている理由を板書に図で整理し、説明の順序を視覚的に捉えることができるようにする。
	3 しょうゆ差しの穴があいている理由を考える。 ・理由の詳しい説明	◎ワークシートに穴の役割や穴があいている理由を図でまとめることで、説明の順序を整理させる。 ○教材文の写真や図を使って説明させることで、しょうゆさしの穴についての理解を深めさせる。
振り返る10分	【予想される児童の反応】 ・しょうゆは、空気の入らないので、しょうゆがでなくなってしまうからです。	○穴の役割と、それに続く詳しい説明から、穴があいている理由を考えて整理させる。
	4 説明の仕方を確かめ、本時の学習を振り返る。 ・4つの事例の説明についての振り返り	◎「ですから」に着目させ、空気が入る穴が必要な理由が、「空気の入らないので、しょうゆがでなくなってしまうから」ということを捉えさせる。 ◆しょうゆ差しに2つの穴があいている理由について、大事な言葉や文を見つけながら読んでいる。(発言・ワークシート) ○4つの事例の説明の仕方を振り返り、それぞれの説明の仕方を考えさせる。 ◎しょうゆ差しの穴はなぜ2つあるのかペア活動で確かめさせ、理解を深めさせる。

あなのやくわり

なまえ

めあて

あながあいているもの…

← 何のためにあいているのでしょうか。

← なぜ、ひひきひなのでしよう。

ふりかえり

あながあいている理由についてわかりましたか。



8 考察

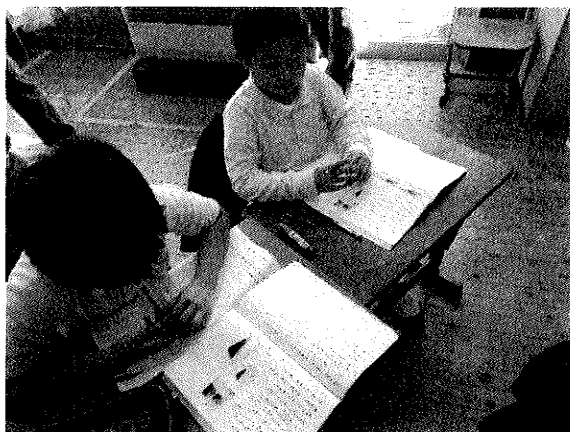
(1) 考えを広めたり、深めたりする発問の工夫

【成果】

- ・単元を通して、自分の考えを深めさせるために、ワークシートに穴の役割を図で表すことができるような枠を作成した。児童は、発問やワークシートから自分の考えを記入し、その後のペア活動につなげていた。また、図に表すことで、ペア学習や全体で共有するときに説明のツールとして用いることができた。

【課題】

- ・本時の学習は、「しょうゆさしはなぜ2つのあながあいているのだろう。」というめあてで学習が進んでいった。しかし、学習のまとめが定まっておらず、わかりにくい展開になってしまった。また、本時のめあてとまとめが対応していなかった。教材研究をより深く行い、めあての設定について考える必要があった。



(2) 対話を通して考えを深める工夫

【成果】

- ・毎時間同じ形式のワークシートを用いたり、同じ学習展開で授業を行ったりしたことで、学習の進め方がパターン化され、自ら進んで学習に取り組む姿が見られた。パターン化することで、児童は学習の見通しを持つことができたため、学習に集中し、意欲的にワークシートに自分の考えを記入していた。

【課題】

- ・なぜ2つの穴が必要か説明を考えるときにペア学習を取り入れた。ペア学習では、話し合いをリードする児童に意見が偏り、お互いの考えを出し合うところまでいくことができていなかった。お互いの意見を出し合う工夫を行う必要があった。

(3) 着実に知識・理解を定着させる振り返りの工夫

【成果】

- ・振り返りをマークと言葉の2つで表すことで、児童が振り返りを行いやすかった。言葉での振り返りを書くことが難しい児童もマークによる振り返りを行うことができた。

【課題】

- ・言葉での振り返りを行うときに、書くときの視点を示さずにわかったことを書かせていた。「あながあいている理由は何に注意して読むとわかりましたか」など視点を示しておくことで児童が振り返りやすかったと思われる。

第3学年 国語科学習指導案

日 時 10月29日（火）第3校時
場 所 3年教室
指導者 教諭 永富 幸恵

研究主題

かかわり合い、深め合いながら、自らを高め続ける児童・生徒の育成
～ 確かな言語能力を育成する国語科教育を通して ～

- 1 単元名 働く犬についての文章を読み、リーフレットにまとめよう
教材名 「もうどう犬の訓練」吉原順平 （東京書籍）

2 研究主題との関連

本単元では、第3学年及び4学年「C 読むこと」の言語活動例「ウ 学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動」を受けて、「働く犬についての文章を読み、中心となる語や文を見付けて『ワンワンワーキングブック』にまとめる。」ことを言語活動として位置づけた。

ここで言う『ワンワンワーキングブック』とは、盲導犬や警察犬などの働く犬の仕事についてまとめたリーフレットを意味している。「もうどう犬の訓練」は、盲導犬の定義や役割、訓練の段階を順序立てて説明した文章である。段落のまとまりがはっきりしていて、話題提示、盲導犬の訓練についての説明、まとめというように「はじめ・中・終わり」という文章構成がわかりやすくなっている。また、それぞれの訓練の内容や様子について具体的に述べられているため、内容を読み取りやすく、だいたいの言葉や文を見付けやすい。さらに、児童にとって身近で親しみやすい動物である「犬」が盲導犬になる過程について、知らないことが多いと思われ、児童が興味・関心をもって学習に取り組むことができる教材である。

リーフレットづくりという言語活動を設定し、中心となる言葉について話し合ったり、書いた要約を読み比べたりすることで、かかわり合って言語能力を育成することができると考えられる。

3 指導の立場

（1）児童観

本学級の児童は、読み聞かせや読書の時間が好きであり、同じ本について休み時間に話をするなど、進んで感想を伝え合っている。児童はこれまで、2年生で説明文「あなのやくわり」で時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を読むことや、文章中の中心となる言葉や文を書き抜く学習を行った。5月に行った説明文「自然のかくし絵」の学習では、目的に応じて中心となる語や文をとらえる活動を行った。このように、本単元のねらいである要約することに関する学習をしてきているが、文章中の中心となる言葉を見付けることに課題がある児童や、内容に即した文章を短く表現することが難しい児童が見られた。事柄の順序などを考えながら本文の内容を読み取る力や、中心となる言葉や文を見付ける力を身につけさせることが課題である。

（2）教材観

本単元は、知りたいことについて調べて短くまとめる活動を通して、中心となる言葉や文を見付けながら読み、要約する力を付けることをねらいとしている。教材文「もうどう犬の訓練」では、盲導犬の定義や役割について説明しているため、中心となる言葉や文を見付けやすく、段落ごとの内容をとらえやすい。そのため、要約するのに適した教材である。

中心となる言葉や文は何かを思考し、まとめる学習を通して、児童は要約の仕方を身につけるこ

とができるだろう。また、単元を貫いて行う「ワンワンワーキングブック」づくりの学習を通して、目的をもって情報を集め、様々な情報から必要なことを取り出し、それをまとめることで相手に伝わる文章を書く力も定着していくと考えられる。

また、感想を友達と共有することを楽しむ本学級の児童にとって、「ワンワンワーキングブックにまとめよう」という単元は魅力的であり、興味や関心をもった内容について、見通しをもって取り組ませたい。

(3) 指導観

○「ワンワンワーキングブック」の参考作品を示し、学習計画を提示することで見通しを持って学習ができるようにさせたい。

○中心となる言葉や文を見付ける方法として、以下の手法に気付かせることで、要約の一助としたい。

① 題名と関係が深い言葉に注目する。

② 「さいしょは」「次は」「たとえば」「さらに」などの接続詞に注目し、例とまとめの読み分けを行う。

○「犬は」「犬が」という主語がない場合、どうやってもうどう犬の訓練内容を読み取るのか問いかけることで、動詞に注目させたい。動詞が明らかになると、明示されていない主語も類推することができるため、子どもが訓練内容を捉えることができるようにする。

○働く犬についての本や図鑑を読み、仕事内容や訓練の方法などを、「もうどう犬の訓練」と同じように児童自身が見付けていくことができるようにする。

○「ワンワンワーキングブック」を完成させる前に友達と交流する時間を設定し、付け加えた方が良い情報などのアドバイスをし合うことで、より必要性の高い情報について考えさせる。

○完成したガイドブックを読み合い、短く、かつ分かりやすい文章を書かれているものについて考えさせることで、友達と自分のまとめ方の違いに気付かせたい。

4 単元の指導目標

○働く犬についての情報を比較や分類し、中心となる語や文を書き留めることができる。

【情報の扱い方に関する事項 イ】

○出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。

【情報の扱い方に関する事項 イ】

○目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。 【C読むこと ウ】

○「ワンワンワーキングブック」に、働く犬について進んでまとめようとするすることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

5 単元の評価規準

知識および技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 働く犬についての情報を比較や分類し、必要な語句などを書き留めることができる。 (情報の扱い方に関する事項 イ) 出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。 (情報の扱い方に関する事項 イ) 	<ul style="list-style-type: none"> 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができる。 (読む) 	<ul style="list-style-type: none"> 「ワンワンワーキングブック」に、働く犬についてすすんで考えをまとめようとするすることができる。 自分で書いた語句や文章を読み返し、振り返ることができる。

6 指導計画（全10時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点（・） 言語活動の充実のための指導(㊦)	評価規準 【観点】〔方法〕
一	1	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品を見て、「ワンワンワーキングブック」を作るという学習の見通しを立てる。 「もうどう犬の訓練」の範読を聞き、もうどう犬のすごいと思ったところについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文中の特に心に残ったことに線を引かせることで、自分の意見を確実に持てるようにする。 ㊦もうどう犬のすごいと思ったところについて、教科書に線を引いたところを見せ合いながら話し合わせる。 	<p>【関】「もうどう犬の訓練」を聞き、もうどう犬についてすごいと思ったところを見付けて感想をもつことができる。〔行動観察・発言〕</p>
二	2	<ul style="list-style-type: none"> 教材文を「始め」「中」「終わり」に分け、大まかな構成をつかむ。 意味のわからない単語に注目し、全体で意味の確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> もうどう犬とはどんな犬なのか説明している文章に線を引かせ、始めの文章について理解させる。 ㊦もうどう犬とはどんな犬か、短くまとめて説明している文章はどこか話し合わせる。 	<p>【関】意味の分からない単語について、辞書を活用して自分で調べることができる。〔リーフレット〕</p> <p>【読】「始め、中、終わり」という文章構造を理解することができる。〔発言・ノート〕</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> 人間の言うことにしたがう訓練とはどんな訓練か、中心となる言葉を見付けて要約する。 	<ul style="list-style-type: none"> 題名と関係のある言葉や、接続する言葉に注目させ、例文の前後に短くまとめられた文章があることに気付かせる。 ㊦中心となる言葉を使って段落の要約文を書かせる。 	<p>【読】中心となる言葉や文を手がかりに、文章の要点を見付けることができる。〔行動観察・発言〕</p> <p>【言】文章の要点を見付け、要約することができる。〔リーフレット〕</p>
	4 （本時）	<ul style="list-style-type: none"> 人を安全にみちびく訓練とはどんな訓練か、中心となる言葉を見付けて要約する。 	<ul style="list-style-type: none"> 題名と関係のある言葉や、接続する言葉に注目させ、例文の前後に短くまとめられた文章があることに気付かせる。 ㊦中心となる言葉を使って段落の要約文を書かせる。 	<p>【読】中心となる言葉や文を手がかりに、文章の要点を見付けることができる。〔行動観察・発言〕</p> <p>【言】文章の要点を見付け、要約することができる。〔リーフレット〕</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> もうどう犬にふさわしい心がまえとはどんなことか、中心となる言葉を見付けて要約する。 	<ul style="list-style-type: none"> 題名と関係のある言葉や、接続する言葉に注目させ、例文の前後に短くまとめられた文章があることに気付かせる。 ㊦中心となる言葉を使って段落の要約文を書かせる。 	<p>【読】中心となる言葉や文を手がかりに、文章の要点を見付けることができる。〔行動観察・発言〕</p> <p>【言】文章の要点を見付け、要約することができる。〔リーフレット〕</p>

	6	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した「ワンワンワーキングブック」を読み合い、リーフレットの作り方について振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の文章が結論になっていることをリーフレットにまとめさせる。 ㊦作ってきたリーフレットの作り方を順序立てて振り返らせる。 	<p>【読】リーフレットの作り方が理解できているか確認することができる。〔リーフレット〕</p>
三	7	<ul style="list-style-type: none"> ・働く犬についての本を読み、同じテーマの本を選んだ人同士でどんな仕事内容なのか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊦同じテーマの本を選んだ人同士で、働く犬の仕事内容について話し合わせる。 	<p>【読】知りたい事柄について調べるために、関連する内容の本を選んで読んでいる。〔リーフレット〕</p>
	8 9	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに詳しく調べ、働く犬の仕事や訓練内容などについて、「ワンワンワーキングブック」にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでまとまって活動させることで、リーフレットの内容がより深まるようにさせる。 ㊦同じテーマの本を選んだ人同士で協力しながら、働く犬の仕事や訓練内容についてわかったことを共有させる。 	<p>【読】知りたい事柄を調べるために本や資料を読み、必要な情報を集めている。〔行動観察・発言〕</p> <p>【言】調べて分かったことを整理して、紹介するために中心となる言葉や文を落とさないように要約している。〔リーフレット〕</p>
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・出来上がった「ワンワンワーキングブック」を読み合い、感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットを読み合い、いちばんわかりやすくまとめている人はだれか考えさせる。 ㊦出来上がったリーフレットを読み合い、わかりやすく要点を見付けたり、要約できていたりする人を見付けて発表させる。 	<p>【読】「ワンワンワーキングブック」を読み合い、働く犬についてわかりやすく要約できているか確かめ合っている。〔発言・ノート〕</p>

7 本時の学習（第二次 4／10）

- (1) 目標 人を安全にみちびく訓練について中心となる言葉を見付けることを通して、9～12段落を要約することができる。
- (2) 準備 学習計画の掲示、本文の全文掲示、ワンワンワーキングブック
- (3) 展開

過程	学習活動・内容 予想される児童の反応	教師の働きかけ (○) 言語活動の充実のための指導 (㊟) 評価 (◆)
つかむ	1 前時までの学習を想起し本時の課題を確認して、音読を行う。	○学習計画に沿って本時の学習課題を確認させる。 ○中心となる言葉に気をつけて音読させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">人を安全にみちびく訓練を要約しよう。</div> <p>2 本文の9～12段落を読み、二つ目の訓練内容が分かる言葉や文を見付け、傍線を引く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を安全にみちびく訓練 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【予想される児童の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハーネスが犬の体に取りつけられる。 ・あぶないもの前で止まったり、それをよけて進んだりすることを教えこまれる。 ・使っている人にとってきけんな命令にはしたがわない。 </div> <p>3 全体で意見を発表し、要点をまとめる上で特にだいじな言葉はどこか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題名「もうどう犬の訓練」と関係の深い言葉 ・「さいしょは」「たとえば」等の接続の言葉 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・前の時間では「さいしょは」の文がだいじな言葉だったから、「次は」の文がだいじな言葉になる。 ・「たとえば」のある文は例になるから、他にもっとだいじな言葉があると思う。 ・「…くり返しくり返し教えこまれます。」と書かれているから、訓練と関係がある言葉だと思う。 </div> <p>4 班ごとに要約を考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を安全にみちびく訓練 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・人を安全にみちびく訓練には、あぶないもの前で止まったり、それをよけて進んだりすること、使っている人にとってきけんな命令にはしたがわないということの2つがあります。 </div>	<p>○本文に傍線を引くことで、視覚的に選んだ場所の違いが分かるようにする。</p> <p>○ペアで線を引いたところを紹介し合わせると共に、可能であれば理由を説明させる。</p> <p>㊟根拠となる叙述を明確にして発表させる。</p> <p>㊟題名と関係のある言葉や、接続する言葉に注目させ、例文の前後に短くまとめられた文章があることに気付かせる。</p> <p>㊟具体例とまとめられた文章の違いを見付けさせ、どちらが要点にふさわしいか話し合わせる。</p> <p>◆中心となる言葉や文を手がかりに、文章の要点を見付けることができる。(リーフレット)</p> <p>○中心となる言葉を見付けることが難しい児童には、前時で使った見付け方のコツを示して意見が持てるように支援する。</p> <p>㊟全体で明らかにしただいじな言葉を生かして、班ごとに要約を考えてワンワンワーキングブックに書き込ませる。</p> <p>◆文章の要点を見付け、要約することができる。(プリント、発表)</p>
つなげる		

<p>深める</p>	<div> <ul style="list-style-type: none"> ・あぶないものの前で止まることと、きけんな命令にはしたがわないことが、人を安全にみちびく訓練の内容です。 </div> <p>5 要約を読み比べて、本時の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝え合いをした感想や気づき <div> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容をそのまま書くと長すぎるから短くまとめると伝わりやすい。 ・「たとえば」のある文の前や後ろを見るとだいたい言葉が見付けられることがわかった。 ・「さいしょは」や「次は」の後にくる文章は本文の内容が短くまとめられた言葉になることがわかった。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 要点を見付けたり、要約を考えたりする時に何に注意をすれば良いか視点をもたせる。 ㊦ 言葉を補ったり、言い換えたりした班の意見と教科書の言葉をつなげた意見を比べることで、どちらがより短くわかりやすいか考えさせる。 ○ 中心となる言葉の見つけ方を確認し、次時の学習内容への意欲を喚起する。
------------	---	--

8. 考察

(1) 考えを広めたり、深めたりする発問の工夫

【成果】

- ・要約に必要な言葉を見つけるため、文章中の接続詞に注目させた。それにより、文中のどこに必要な言葉があるのか、子どもが考えながら読み進めることができた。また、接続詞を見つけることで、文と文の関係性に着目して読む活動ができた。
- ・ヒントカードを用意し、子どもが要約するためのスモールステップを作ることによって、どの子どもも意見をもつことができた。また、意見をもつことはできるが自信が持てず、発表ができない子どもにとっても、ヒントカードと自分の要約を比べて確認することで、自分の意見に自信がもてた。
- ・ルビ付きのプリントを用意することで、読むことに課題がある子どもも意欲的に学習に取り組むことができた。

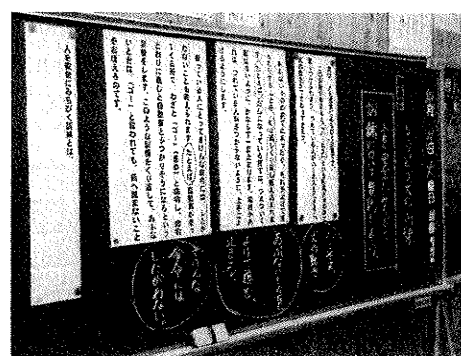
(2) 対話を通して考えを深める工夫

【成果】

- ・全体で共有する前に班活動を仕組んだことで、自信をもって発表することができる子どもが増えた。普段意見を発表することに苦手意識を感じる子どもにとって有効な時間になった。

【課題】

- ・「要約にしては長い」という子どもの言葉を全体で取り上げ、どうしたら適切な長さに収めることができるか問い返しができるとよかった。より簡潔な要約を目指そうと工夫していた子どももいたので、児童から出た良い意見を少しずつ取り入れ、学級全体で話し合うことでよりよい要約を作り上げていく展開にできるとより学びが深まったと考えられる。



(3) 着実に知識・理解を定着させる振り返りの工夫

【成果】

- ・全員参加の発表で自分たちが良いと感じた要約を共有することができた。学級の他の子どもにも聞いてもらい、価値づけてもらうことで自分たちの選んだ要約の仕方に自信をもつことができた。

【課題】

- ・全体で発表した時、後ろの席の子どもには要約が見づらいようだった。iPadで撮影し、拡大しながら説明ができるとより内容まで読みやすかったのではないかとと思われる。
- ・今回、子どもの意見をまとめ、教員が書いて全体に広げるのみにとどまった。そのため、書いた要約を子ども自身がもう一度振り返ったり、より適切な文章にするためにはどのようにすればよいか考えたりする活動があるとより学びを深めることができる。

第4学年 国語科「報告します、みんなの生活」

指導者 山根 さゆみ

1 本時案

2 考察

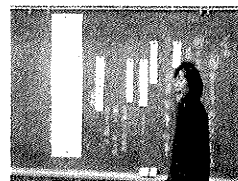
(1) 考えを広めたり、深めたりする発問の工夫

【成果】

- ・ 本時の学習活動を確認し、進め方を理解させることができた。(アンケートする内容を決めること。アンケートの形式を知り、自分たちの質問の仕方を決めて、文章にすること。自分たちが決めたことを、クラスの人々に説明すること。)
- ・ 自分たちで決めた内容についてアンケートを取る学習なので、児童が興味を持ち、意欲的に取り組む姿勢が見られた。(話し合い活動。本時以降の授業やアンケート集計等。)

【課題】

- ・ 児童の思考の流れを大切にしたい教師の机間巡視による支援を行う必要があった。児童の気持ちを聞き、アドバイスを求められたことに対して答えるという態度を大切にしていきたい。
- ・ 今回は、自分の考えをクラスの人々に分かりやすく説明するために、発表の例(言い方)を提示した。自分の言葉で伝えることができる児童が多いので、児童の実態に応じて発表の型の提示をしたり、自由に自分の言葉で発表させたりしていくようにするとよかった。



(2) 対話を通して考えを深める工夫

【成果】

- ・ 話し合い活動では、のびのびと自分の言葉で自分の意見を述べる児童が多かった。

【課題】

- ・ 班での話し合い活動で、自分の考えを班員にわかりやすく伝えるように意識づけることが難しかった。
- ・ 相手意識(聞き手がどう感じるかを考える)を持たせて、クラスの全員に発表させるための手立てを考える必要があった。



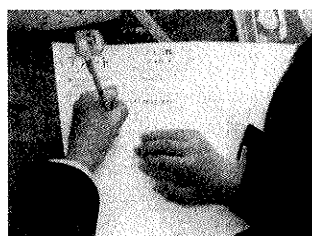
(3) 着実に知識・理解を定着させる振り返りの工夫

【成果】

- ・ 振り返りカードを利用して、自分の活動を意識させることができた。

【課題】

- ・ 振り返りの時間が確保できるように、時間配分に留意する。今回児童が考えたことや活動したことを、次時につなげていける振り返りをさせていきたい。(「次の時間には、〇〇の活動をしていこうと思う。」というような振り返り)



1. 主眼

・質問の仕方や回答欄を工夫して、グループでアンケートを作り、アンケートの趣旨をわかりやすく説明することができる。

2. 指導上の留意点

・話合いや発表の役割分担を考慮して、グループの人数を三人にする。(前時に話題とグループのメンバーを決めておく。)

・三人の役割を確認させる。(記録・進行・発表は全員です)

・教科書p.117の例を参考にし、質問項目は三～五つ程度にすることを知らせる。電子黒板を利用して掲示する。(アンケート)

3. 評価

・話合いの参加の様子(観察)
・記録用紙
・発表内容・態度

2 / 6 (金)

㊦ アンケートする内容を決めて、それを選んだ理由を発表しよう。
テーマ
読書・習い事・行事

話し合う内容(役割を決める)

・質問したいこと

三～五こ

・質問の仕方

自由に答える ○で選ぶ

○で選んだ後に答える

その他を入れる

・発表する時の説明の仕方

発表

九時五〇分ごろ

発表の例(言い方)

・私たちは、○○の理由(様子・

実態)を知りたいと思って、○

○を調べることにしました。

・そのために、○○のことを調べ

ようと決めました。それによっ

て、○○のことがわかると思っ

たからです。

○学習活動・内容 *指導上の留意点 ★評価

本時の流れ

○学習課題を確認し、本時のめあてを確かめる。

*教科書 117 ページ、アンケートの書き方(自由記述式 選択式、組み合わせ、その他)を見ながら書き方を理解させる。

*自分達が決めた項目を選んだ理由、何を知りたいと思ったのかを説明することを予告しておく。

*発表の例を示し、言い方を理解させる。

○グループになり、アンケートで調べたいことについて話しあう。 ★

*机間巡視をしながら、児童の意見を聞き取り、アドバイスを

する。

*発表の仕方について、例を見せながら具体的に考えさせる。

○話し合ったことを、クラス

のみんなに説明をする。★

・グループごと

・感想の発表

*電子黒板を利用して、アンケートを提示し、説明が理解できるようにする。

○本時の学習をふり返る。

・ふり返りカードの記入 ★

／ つ か む

／ 考 え る

／ 深 め る

／ 振 り 返 る

学習ふりかえりカード

名前（

）

・ 話合いで、自分の考えを言うことができましたか。（

）

・ 質問の仕方や書き方を工夫してアンケートをつくりましたか。

（

）

・ 作成したアンケートの内容を、わかりやすく伝えることができましたか。

（

）

・ 今日の学習の感想を書きましょう

アンケート内容を書き込むカード

アンケート

（ ）班

・ ・

● 質問の内容を考えて、アンケートを作りましょう。回答を選ぶ形式にするときは、回答の例をいくつか挙げておきましょう。

（ ）について教えてください	
調べるグループ はん	名前
質問（１）	
質問（２）	
質問（３）	
質問（４）	
	お礼の言葉

第5学年国語科学習指導案

令和元年10月29日（火） 3校時

場 所 5年 教室

指導者 西本 泰之

研究主題

かかわり合い、深め合いながら、自らを高め続ける児童の育成
～確かな言語能力を育成する国語科教育を通して～

- 1 単元名 宮沢賢治の作品を読んで、読書会で話し合おう
教材名 「注文の多い料理店」（東京書籍5年）

2 研究主題との関連

本単元では、第5学年及び第6学年「C 読むこと」の言語活動例「イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。」を受けて、「宮沢賢治の作品を読んで、読書会を開こう。」を主たる言語活動として位置づけた。ここで行う読書会とは、物語の中から話し合いたいテーマを決め、そのテーマについての自分の考えをまとめ伝え合う活動である。伝え合う場面では、「意見も理由も同じだ」「意見は同じでも理由はちがう」「意見はちがったが理由は同じだ」「意見も理由もちがう」という観点から、それぞれの考えの根拠を叙述を元に話し合わせる。このことにより、本単元でねらう「C 読むこと」の指導事項「カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。」が実現できると考えた。

また、読書会の前後での自分の考えを「友達の意見を聞いて変わった」「変わらなかったが、友達の意見の～の部分に納得した」「伝え合いを通して、自分の考えがより強くなった」という3つの視点から振り返る。そのことで、「A 話すこと・聞くこと」の指導事項「エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。」も実現できると考えた。

3 指導の立場

（1）児童観

本学級の児童は、音読による表現の工夫に意欲的に取り組む。4月の「だいじょうぶだいじょうぶ」の学習では、登場人物や場面の様子を伝わりやすく他学年に向けて音読発表する活動を通して、物語を読んで想像したことを抑揚や強弱などの工夫を凝らして音読で表現することができた。また、物語の構成を捉える学習では、6月の「世界でいちばんやかましい音」で、物語の構成や山場での変化を捉え、物語を面白くするという山場の役割に気付くことができた。しかし、登場人物の心情や場面の様子、物語の構成を捉えることができて、それらを明確な根拠をもって説明することは難しく、他者と交流しながら考えを広めていくことも難しい。そのため、物語の内容について叙述を根拠に考えを持ちながら友達と意見を交流し読み深め、自分の考えを広げる力の向上が必要である。

（2）教材観

本教材は、文明化し自然から遠のいた現代の人々の風俗を二人の紳士という人物に反映し、懲罰的な結末に宮沢賢治の文明社会への警告的メッセージを読みとることができる作品である。叙述から紳士の人物像が捉えやすく、物語の展開と読み合わせることで、物語に込められたメッセージを読み解くことができると考える。また、「風がどうとふいてきて・・・」という繰り返しの言葉や、戸の言葉の真意と紳士の誤解、多様なオノマトペなど、物語を面白くする仕掛けが多数ある。よって児童は、叙述を根拠に読書会のテーマに沿って楽しみながら物語を解読し、物語に込められたメッセージについて話し合い考えを広めていくことができると考える。

(3) 指導観

- 読書会を行うことを知らせ、学習計画表を掲示することで、学習に見通しを持って取り組めるようにする。
- 読書会のルールを提示し、全員を話し合いに参加させることで、話し合いにより1人1人の考えが広がっていくようにする。
- 読書会を通して自分の考えがどうなったかを振り返らせることで、友達の意見と比較しながら自分の考えをまとめることができるようにする。
- 単元を通して、読み取った内容を整理したものを掲示して行くことで、常時視覚的に振り返ったり、他の場面と比較したりしながら、考えられるようにする。
- 事前に自分の考えを書かせておくことで、読書会に1人1人が参加できるようにする。
- 意見を持つことが難しい児童にはヒントカードを渡し、意見がまとめられるようにする。

4 単元の指導目標

○読書会で取り扱う物語を進んで読み、自分の考えを広げようとしている。

【我が国の言語文化に関する項目（3）－オ】

○読書会テーマについての考えを共有しながら、考えを広め伝え合っている。

【C 読むこと（1）－カ】

○友達の意見と比較しながら、自分の考えをまとめている。

【A 話すこと・聞くこと（1）－エ】

○考えを伝え合うことに意欲的に取り組もうとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・進んで読書をし、自分の考えを広げようとしている。</p> <p>(3)－オ</p>	<p>・読書会で意見を伝えあいながら、考えを広めている。</p> <p>(読力)</p> <p>・読書会での交流を振り返り、自分の考えをまとめている。</p> <p>(話・聞エ)</p>	<p>・読書会を通して、考えを伝え合うことに積極的に取り組もうとしている。</p>

6 指導計画（全12時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点（・） 言語活動の充実のための指導（㊟）	評価規準 【観点】〔方法〕
第一次	1	○宮沢賢治の作品について、読書会を開くことを知り、見通しをもつ。 ○p240「宮沢賢治」を読み、宮沢賢治の人物像を捉える。	・宮沢賢治の作品に興味を持てるよう、何冊かの作品を事前に読み聞かせしておく。 ㊟ p240「宮沢賢治」から読み取れる宮沢賢治の人物像を付箋に記入し、根拠となる叙述のそばに貼ることで、読み取った事を視覚化させるよう指導する。	【知】読書会に興味を持ち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。 ○本文を読み、宮沢賢治の人物像を捉え、まとめている。
第二次	2	○「注文の多い料理店」を読んで、初発の感想を書く。	・感想が書けるように「登場人物についてどう思ったか」「面白いと思ったこと」の2つの視点を持たせて読ませる。	○物語の内容を大体捉え、内容や叙述についての感想をもつことができる。
	3	○登場人物や出来事の順番を押さえて、場面を分ける。	・「場所」「登場人物」を根拠に場面を分けさせることで、物語を3場面に分けられるようにする。	○叙述を基に登場人物や出来事をまとめ、物語を3つの場面に分けることができる。
	4	○「現実の世界と不思議な世界への入り口と出口」テーマについて読書会を行う。	・事前にテーマについての意見を書かせておくことで、全員が読書会に意見を持って参加できるようにする。 ㊟ 児童同士の対話を活性化させるため、「読書会ルール」「読書会を終えて」を掲示し、視点を持って活動に当たらせるよう指導する。	○自分と友達の意見を比べたり質問したりしながら、考えを広めている。 ○読書会を通して、自分の意見をまとめ直している。
	5	○戸の言葉について、山猫の真意と紳士の受け止め方を比べて考える。	・一つの言葉から二つの意味が読み取れる面白さに気づかせるため、二者それぞれの立場を押さえた上で考えさせるようにする。	○戸の言葉から読み取れる二つの意味を捉えている。
	6	○本文を読んで、2人の紳士の人物像を捉える。	・紳士の人物像を考える際に、叙述に基づいて考えさせるようにする。 ㊟紳士の人物像を付箋に記入し、根拠となる叙述のそばに貼ることで、読み取った事を視覚化するよう指導する。	○叙述を基に、2人の紳士の人物像を読み取っている。

	7	○「物語を通じて、紳士の変ったところ、変わらないところ」というテーマについて読書会を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にテーマについての意見を書かせておくことで、全員が読書会に意見を持って参加できるようにする。 ㊦ 児童同士の対話を活性化させるため、「読書会ルール」「読書会を終えて」を掲示し、視点を持って活動に当たらせるよう指導する。 	<p>○自分と友達の見解を比べたり質問したりしながら、考えを広めている</p> <p>○読書会を通して、自分の意見をまとめ直している。</p>
	8 (本時)	○「なぜ紳士の顔は元にもどらなかったのか」というテーマについて読書会を開く。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にテーマについての意見を書かせておくことで、全員が読書会に意見を持って参加できるようにする。 ㊦ 児童同士の対話を活性化させるため、「読書会ルール」「読書会を終えて」を掲示し、視点を持って活動に当たらせるよう指導する。 	<p>○自分と友達の見解を比べたり質問したりしながら、考えを広めている。</p> <p>○読書会を通して、自分の意見をまとめ直している。</p>
	9	○「この作品のおもしろさ」というテーマについて読書会を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にテーマについての意見を書かせておくことで、全員が読書会に意見を持って参加できるようにする。 ㊦ 児童同士の対話を活性化させるため、「読書会ルール」「読書会を終えて」を掲示し、視点を持って活動に当たらせるよう指導する。 	<p>○自分と友達の見解を比べたり質問したりしながら、考えを広めている。</p> <p>○読書会を通して、自分の意見をまとめ直している。</p>
	第 三 次 10 11 12	○児童が選んだ宮沢賢治の作品で、読書会を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にテーマについての意見を書かせておくことで、全員が読書会に意見を持って参加できるようにする。 ㊦ 児童同士の対話を活性化させるため、「読書会ルール」「読書会を終えて」を掲示し、視点を持って活動に当たらせるよう指導する。 	○進んで読書をして、自分の考えを広げようとしている。

7 本時の指導

- (1) 目標 テーマに沿った読書会を通して、自分の考えを広めることができる。
- (2) 準備 物語構成図 読書会ルール表 ワークシート 振り返りの視点掲示
- (3) 展開

過程	学習活動・内容	予想される児童の反応	教師の働きかけ(○) 言語活動充実のための指導 (㊟) ☆評価
つかむ5分	1 最後の場面を音読し、読書会のテーマを確認する。		○ 学習計画表から、本時の学習課題を確認させる。 ○ 自分の意見と本文を結びつけるため、最終場面を音読をさせる。
	「なぜ紳士の顔は元に戻らなかったのか」というテーマについて、読書会を開こう		
／	2 班で意見を交流する。 ・対話的活動を通した思考の広がり	【予想される児童の反応】 ・生き物を大切にしない紳士を、作者が物語を通してこらしめたんだと思う。 ・「泣いて泣いて泣いて泣いて泣きました。」とあるから、すごく怖かったとわかる。だから顔が戻らなかったんだと思う。	㊟ 児童同士の対話を活性化させるため、「読書会ルール」を掲示し、視点を持って読書会に当たるよう指導する。 ○ 友達の意見を端的にまとめてノートに記入させることで、友達の意見と自分の意見を比べながら考えられるようにする。 ☆意見を比べながら意見を繋げたり質問したりするなど、考えを広めようとしている。
つなげる30分	3 全体で交流する ・合意的、批判的な交流	【予想される児童の反応】 ・～君の考えについて質問です。 ・ぼくの考えは～だったけど、～さんの考えをきいて～な所がいいなと思いました。 ・考えは同じだけど理由はちがって、私は～だからだと思います。	○ 意見を板書に構造化し、全体の意見の繋がりを捉えやすいようにする。 ○ 全体交流に適宜グループワークを組み込み、意見をつなげられるようにする。 ○ まとめる際に、 ・「～さんの意見を聞いて、 <u>考えが変わりました。</u> 」 ・「 <u>考えは変わらなかったけど</u> 、～さんの～という考えは良いなと思いました。」 ・「 <u>読書会を通して、自分の考えがより強くなりました。</u> 」
／	4 読書会後の自分の意見をまとめる ・自分の考えの変化に視点をおいた振り返り		○ 3つの視点で自分の考えをまとめる。 ㊟ 振り返りの3つの視点を示した「読書会を終えて」を掲示し、1人1人が読書会前後の自分の考えの変化を捉えられるよう指導する。 ☆読書会で聞いた友達の意見と比較して、自分の意見をまとめている。
高めめる10分			

8 考察

(1) 考えを広めたり、深めたりする発問の工夫

【成果】

- ・単元学習の導入では、読書会を開くことを児童に知らせた。そして事前に決めておいた読書会のテーマを、児童の書いた初発の感想と関連づけながら知らせることで、話し合うことの必要性を感じさせた。児童は物語を読んで感じたり考えたりしたことを、読書会を通じて伝え合い、考えを深めることができた。
- ・事前に伝記「宮沢賢治」を読み、宮沢賢治の人物像を捉える学習を行った。その結果、読書会での話し合いにおいて、叙述の背景にある作者の考えにまで児童の意見が至り、考えを深めることができた。

【課題】

- ・読書会のテーマによっては、自分の考えを持つことが難しい児童が多くいた。このことから、読書会のテーマは、より児童の持つ疑問に近いテーマを設定する必要があるあった。

(2) 対話を通して考えを深める工夫

【成果】

- ・読書会で児童が対話的に活動できるよう、「読書会のルール」を掲示し、またグループに配布し、確認しながら活動に取り組ませた。このことで児童は、友達の意見を傾きながら聞いたり、質問したり、まとめたりしながら話し合いを進めることができた。
- ・児童の意見を、意見と意見の繋がりや対立を示すよう構造的に板書し、児童に聞き返したりまとめさせたりするなどした。児童は、それぞれの意見を発表だけで終わらずに質問したり反対の意見を述べたりするなど、関わり合いながら考えを深めていった。

【課題】

- ・読書会での話し合いにおいて、司会や記録などの役割を設定せずに臨んだ。これらを設定し、役割を意識した読書会をさせることで、より話し合いが活性化すると考える。



(3) 着実に知識・理解を定着させる振り返りの工夫

【成果】

- ・単元を通して、「読書会前の自分の考え」「友達の考え」「読書会後の自分の考え」を構造化したワークシートを使用した。振り返りでは、読書会後の自分の意見を「友達の意見を聞いて考えが変わった」「変わらなかったが、～さんの意見に納得した」「自分の考えがより強くなった」の3つの視点を持たせ、読書会のテーマについて多面的に振り返られるようにした。このことで、読書会前の自分と後の自分の意見を比べながら振り返りを行うことができた。

【課題】

- ・振り返りの視点を、物語のどんなことが分かったかという教材内容だけに留まらず、どのような読みをしたかという教科内容にまで至らしめることで、より、読む力が身についたと思われる。

第6学年 国語科「海のいのち」

指導者 八道 昌恵

1 本時案

- (1) 単元名 感動の中心をとらえよう 「海のいのち」
- (2) ねらい クライマックスの一文（物語が自分に最も強く語りかけてきたところ）についての考えを互いに伝え合い、感動の中心を共有することで、読みを深めることができる。
- (3) 準備・資料 教：第5場面全文・場面絵・短冊カード（クライマックスの一文）
児：短冊カード（クライマックスの一文）・ワークシート・ふり返しカード
- (4) 展開

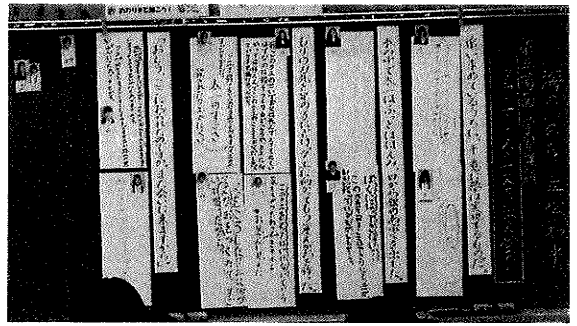
過程	学習活動・学習内容	教師の手立てと評価（★）
つかむ 10分 ／	1 前時の学習を想起する。 ○クライマックス場面での読みの交流 ↓ ○クライマックスの一文の確認	・クライマックスの一文（物語が自分に最も強く語りかけてきたところ）について確認しておく。 ・第5場面を音読させ、文章を黒板に提示することで、自分の学び（クライマックスの一文・その理由）を確認させる。
	2 本時の学習課題を確認する。	・自分の考えを友達と伝え合って学習をすすめていくことの大切さ（互いに考えを伝え合い、深まっていく学習）を伝えたい。
考 え る ・ 広 め る ・ 深 め る ／ ま と め る 5分	クライマックスの一文について、自分の考えを伝え合おう	
	3 クライマックスの一文について自分の考えを伝え合う。 【全体】 ○読みを交流する意欲 ○読みの相違 ○叙述を根拠にした読みの伝え合い ○叙述をもとにした人物の心情の想像 【予想されるクライマックスの一文】 ○瀬の主をうとうと思う太一 ・この大魚は自分に殺されたがっているのだと太一は思ったほどだった。 ・この魚をとらなければ、本当の一人前の漁師にはなれないのだと、太一は泣きそうになりながら思う。 《太一の考えの変化》 父を殺した瀬の主に対する思いの変化 ↓ ○瀬の主を海のいのちだと思う太一 ・水の中で太一はふっとほほえみ、口から銀のあぶくを出した。 ・もりの刃先を足の方にどけ、クエに向かってもう一度えがおを作った。 ・「 <u>おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。</u> 」 ・大魚はこの海のいのちだと思えた。	・第5場面が物語のクライマックス場面であること、最も感動の中心となる場面であることを確認する。 ・クライマックスの一文を確認する時間をとり、クライマックスの一文だと考える 根拠（ワークシート・画用紙記入）を確認させる。 ・発表者が選んだ一文を他の児童全員で音読することによって、友達の感動の中心に思いを寄せるように働きかける。 ・クライマックスの一文、その根拠や理由を明確にしながらを発表させる。発表の仕方のよさが見られた場合にはしっかりと賞賛する。 ・児童の思考を整理しながら、児童の考えが分かりやすく伝わるように板書を効果的にまとめ、伝え合う喜びをしっかりと味わわせたい。 ・友達の考えを聞いての感想や気づき等を発言させることで伝え合いを深めさせ、互いの感動の中心を共有できるようにする。 ★クライマックスの一文を全体場で伝え合い、感動の中心を共有することができたか。 （観察・発表・ワークシート） ・本時の学習の様子を的確に評価して伝えることにより、友達との伝え合いを通しての学びの深まりにつながったことをしっかりと賞賛する。

2 考察

(1) 考えを広めたり、深めたりする発問の工夫

【成果】

- ・課題解決に向かうために、児童の実態を把握しながら一人学びの時間を確保することで、自分の考えを持つことができた。
- ・「会話・行動・表現を読むことにより、人物の気持ちを読み取っていく」そして、その後、クライマックスの一文(自分の心に最も強く響いてくる一文)について考えを共有しながら、物語を読み進めていくことを伝えた。学習を重ねる中で、児童は意欲的にワークシートに書き込みをしたり、クライマックスの一文を選んで自分の考えを伝えたりすることができるようになった。



【課題】

- ・クライマックスの一文を選んだ理由をしっかりと表記できていない児童については、全体で共有し合う中で、児童の読み取りのよさを引き出せるように、発問の工夫を行う必要があった。

(2) 対話を通して考えを深める工夫

【成果】

- ・写真付きのネームカードに選んだ文の番号を記入させることで、自分や友達の選んだ一文について明確になるようにした。同じ考えでも理由がそれぞれ違うこと、友達が思いを寄せている場面について考えを共有することで、物語を深く読むことにつながっていった。

【課題】

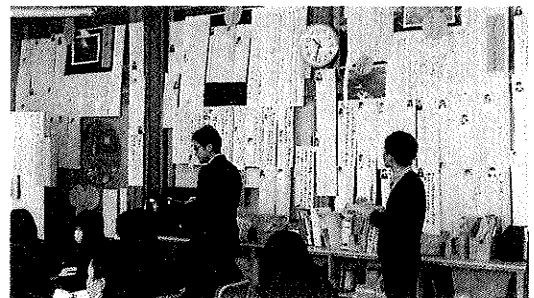
- ・各場面ごとにクライマックスの一文を選び、理由と共に考えを伝え合う学習を進めてきた。第5場面は物語の中のクライマックス場面であるので、一文について考えを伝え合った後、「太一の考えが変わったところはどこだろう？」という課題を提示し、考えを共有することで、さらに物語の主題に迫ることができたのではないかなと思う。
- ・児童同士で疑問や聞いてみたいこと等を自由に話し合うことができる学習にまで高めていくと、さらに学習が深まっていくと思う。



(3) 着実に知識・理解を定着させる振り返りの工夫

【成果】

- ・授業の終わりに短時間で記入できるように、振り返り項目を2つと、ひとりごとが記入できる吹き出しの欄を設けた。自分の課題に対しての振り返りや友達の考えのよさについての記述が多かった。自由に書かせることで、児童の学習における思いを引き出すことができた。
- ・教室に毎時間の授業の流れをまとめた全文を掲示したことで物語の展開を思い出しながら学習を進めることができた。また、自分たちが考えを出し合いながら学習を進めてきた足跡を常に目にすることで、学習への意欲化を図ることができた。



【課題】

- ・児童一人ひとりの物語の読み取りが掲示物に表れるようにすると、場面ごとのつながりがよく分かり、読み取りの振り返りが行われ、学習が深められるのではないかなと思う。

★クライマックスの一文

名前（

）

★選んだ理由

--	--	--	--	--

1 本時案

2 考察

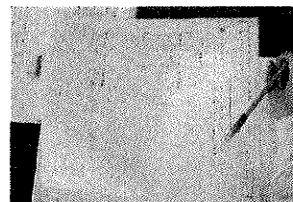
(1) 考えを広めたり、深めたりする発問の工夫

【成果】

- ・ワークシートをパターン化することでスモールステップで支援することができた。また、ワークシートを表にまとめていく力をつけさせることができた。
- ・発達段階が違うので、個に応じた支援を行い視写する児童やヒントになるホワイトボードを渡すなど「自分でできた」と感じさせることができた。
- ・児童の語彙力に差があり、言葉ではイメージできない児童が多い。例えば「やねの上」や「えんの下」など写真と言葉を合わせて教えていくことで語彙力を高めることができた。

【課題】

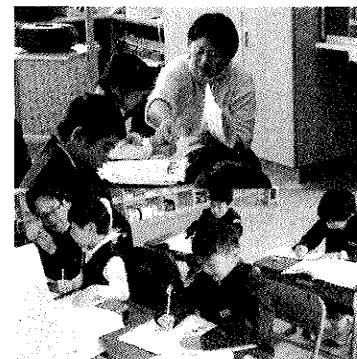
- ・語彙力が少ない児童に対し「投げる・置く・載せる」などの動詞にも着目し動作の違いをイメージさせ、言葉の意味を広くしていく必要があったので工夫していきたい。



(2) 対話を通して考えを深める工夫

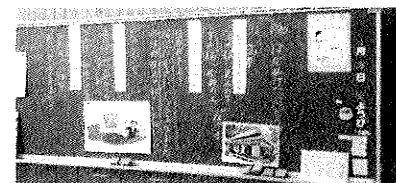
【成果】

- ・相手意識をもたせる発問をすることで、全体で取組を行っている意識付けを行うことができた。
- ・全体を見る指導が必要であると感じた。児童の発達段階に差があるが、全体を見て活動の保障をすることで一人ひとりが活躍することができた。
- ・児童が出した答えを広げていくことで、「できる・やれる」と言う姿にさせることができた。



【課題】

- ・教師対児童の対話はできるようになってきているが、ペアワークはまだ難しく課題がある。ペアワークにつなげていくための活動設定を考えること、そのための授業改善の取り組みが必要である。



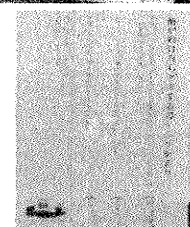
(3) 着実に知識・理解を定着させる振り返りの工夫

【成果】

- ・振り返りカードで、自分の活動を振り返り「できた・やれた」を実感させることができた。
- ・振り返りカードの活用を行うことで、「自分のできた」を感じることができた。

【課題】

- ・授業の流れを考え「起承転結」を大切にし、学習に意欲的に取り組めるように考えていきたい。



(1) 国語科「 歯がぬけたらどうするの 」

1 主 眼

- ・表へのまとめ方を理解し、中国ですることについて整理してまとめることができる。

2 評 価

- ・だいたい言葉や文に気をつけ読み取ることができたか。
(ワークシート、発言)
- ・表にまとめたことを発表することができたか。(ワークシート、発言)

3 準備物

- (教) 掲示物
- (児) ワークシート
振り返りカード

世界地図

挿絵

日本の家

・どうしてそうする
あたらしいはが早く生えてくるから。

・どんなことをする
上のは ベットや
ふとんの下
下のは やねにのせる

ちゅうごく

⑥ちゅうごくでは、はがぬけたときにどうするか、みつけてまとめよう。

・どうしてそうする
じょうぶなおとなのはが生えてほしいとねがうから。

日本

振り返る【5分】 / 深める(集団解決・共学び)【15分】 / 考える(自力解決・一人学び)【20分】 / つかむ【5分】 / 学習過程

○振り返りカードに自分ができたことを振り返り○をつけさせる。

★表にまとめたことを発表することができる。
(技 ワークシート・発表)
*日本と中国の歯が抜けた後にすることには、共通するところが多いことに気がついていいるか確認し、次の国との比較に意欲をつなげる。
(技 ノート・発表)

○表にまとめたことを教師と確認する。
発表させ、板書してみんなで確認していく。
*どんなことをするのか、どうしてするのかに分けて表に書いていいるか確認する。

★表にまとめたことを教師と確認する。
発表させ、板書してみんなで確認していく。
*どんなことをするのか、どうしてするのかに分けて表に書いていいるか確認する。

○前に書いた表を確認する。本時は、中国についてまとめることを確認する。
*だいたい言葉や文に○をつけさせる。
○中国ですることをワークシートにまとめる。

めあて ちゅうごくでは、はがぬけたときにどうするのか、みつけてまとめよう。

○前時の学習の振り返りをする。
*本時の活動がわかり、音読ができるように、声かけをする。

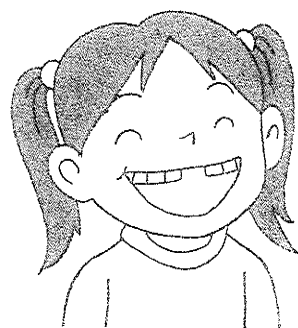
○学習活動・内容 *指導上の留意点 ★評価

歯^はがぬけたらどうするの

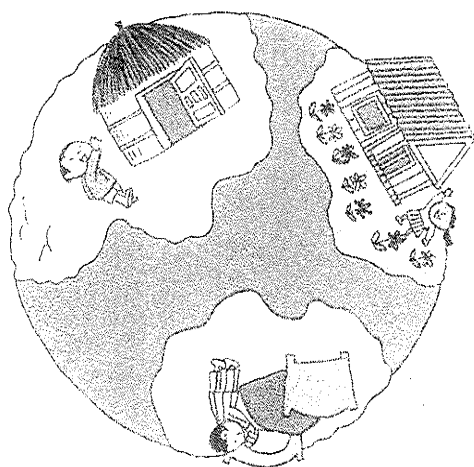
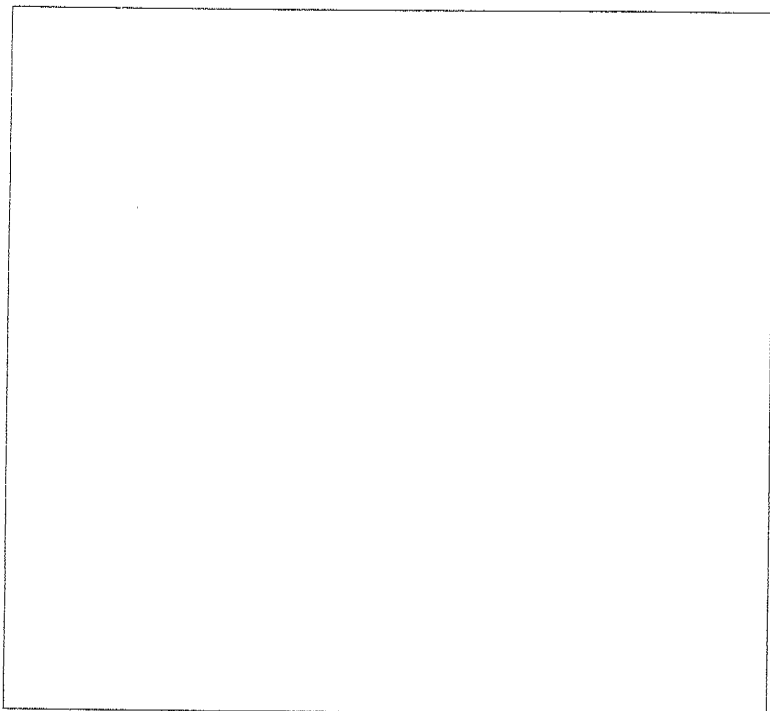
名まえ（

歯^はがぬけたとき、なにかしたりいったりしたことが
ありますか。したことやいったことをかきましよう。

--	--	--	--	--	--	--

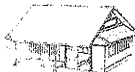







歯^はがぬけたらどうするの」をよんで、出てきた
くにかきましよう。



歯^はがぬけたらどうするの

名まえ（

くに						
どんなことをするのか						
どうしてそうするのか						

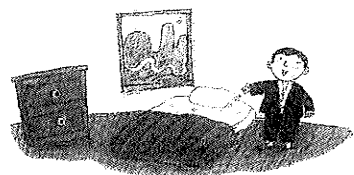
歯^はがぬけたらどうするの・ふりかえり

* ()のどんなことをするのか、どうしてそうするのかを見つけられましたか。

* ワークシートや表にまとめることができましたか。

* 表にまとめたことを発表することができましたか。

【学しゅうのかんそう】



研究の成果と課題

本年度は、「かかわり合い、深め合いながら自らを高め続ける児童の育成～確かな言語能力を育成する国語科教育を通して」という研究主題で研修に取り組んできた。

国語科の授業研究の視点として、次の３点を設定した。

- (１) 考えを広げたり、深めたりする発問の工夫
- (２) 対話を通して考えを深める場の工夫
- (３) 着実に知識・技能を定着させる振り返りの工夫

また、授業研究以外の学力向上に向けた取組を実施した。

- (１) モジュール学習
- (２) 交換授業
- (３) 漢字・計算大会

以下それぞれの取組の成果と課題を挙げる。

１ 授業研究の成果と課題

(１) 考えを広げたり、深めたりする発問の工夫

【成果】

- ・児童から多様な考えが出るような、友達と意見を比べて話し合いたくなるような学習課題を設定することで、児童は考えを広げたり、深めたりすることができた。
- ・ワークシートをパターン化することで、児童は見通しを持つことができたため、自分の考えを書きやすくなったり、自信を持って発表したりすることができた。

【課題】

- ・本時のめあての提示までに、児童に興味をもたせる手立てが必要である。また、そのめあては本時のまとめと対応するものにしなければならない。

(２) 対話を通して考えを深める場の工夫

【成果】

- ・自分の考えを持てるような視点を与えたり、考える時間を確保したりして、自分の考えを持たせて対話に臨ませることができた。
- ・対話の進め方のルールを掲示し、確認しながら取り組ませることで、質問したり答えたりしてお互いに考えを深めることができた。

【課題】

- ・コミュニケーション力が不足しているために、ペアやグループの中で、意見を言うだけの形で終わってしまうこともあった。
- ・対話の目的を理解させて、必用感を持てるような話し合いをさせていきたい。

(３) 着実に知識・技能を定着させる振り返りの工夫

【成果】

- ・高学年は自由に書かせることで、自分の思いを表現することができた。
- ・振り返りの視点を示すことで、書きやすいと感じる児童もあり、焦点が絞られた振

り返りになった。

【課題】

- ・教室掲示の中にも児童の考えを記入して蓄積しておく、これまでの学習の振り返りに役立つ。
- ・振り返りの時間を確保し、新たな疑問やめあてを出させて、次の学習につなげていきたい。

2 学力向上に向けた取組

(1) モジュール学習

月、水、金曜日の1校時に行うことを原則として、2学期から実施した。内容は、詩の暗唱、マス計算、暗記、漢字、プリント学習、聞き取り問題等である。

【成果】

- ・暗記すべき内容は復習が大切なので、モジュール学習によって、知識・技能の定着に効果があった。
- ・1校時に全学年で取り組むので、一体感が生まれている。

【課題】

- ・週に3回実施することが、他の教科との兼ね合いで難しかった。来年度は週2回実施することを基本として、年間70時間（国語35時間、算数35時間）程度を予定している。

(2) 交換授業

交換授業のねらいは、以下の3点である。3学期に実施した。

- 様々な学年の授業を実施することで、児童の実態を踏まえた指導方法を工夫するなど個々の教員の授業力を高める。
- 全校児童を全教職員で育てていくという風土をつくっていく。
- 中1ギャップ、小中ギャップの解消を図る。

【成果】

- ・他学年の児童の様子、学習内容、理解の仕方等、実際に授業をすることで見えてくるものがあつた。児童理解につながり、よい経験となった。
- ・分かる授業のためのいろいろな準備（ワークシート、発問、板書計画等）をしたことや授業交換の様子を他の教員が参観し、成果や課題を共有できたこと、児童の率直な意見が聞ける機会があつたことにより、授業改善につなげることができた。
- ・授業担当者が代わることで、中学校での教科担任制へ移行する準備ができた。

【課題】

- ・児童の実態を把握したり、学級担任打ち合わせをしたりする時間が十分にとれず、準備物（教材、発問、掲示物等）が実態に合わないところがあつた。
- ・交換授業の時間数が限られているため、児童の様子を見て、臨機応変に活動の時間配分を変更したり、声かけをしたりすることができなかった。
- ・特別支援教育の視点から、児童が困った時の手立てを準備しておくことが必要であつた。

(3) 漢字・計算大会

当該学年で学習した基本的な内容を児童に定着させるために、2月に全校同時に実施した。漢字は業者テストを利用し、算数は担任が基礎的な内容でテストを作成した。

【成果】

・大会があることで教師の学力向上への意識が高まるとともに、児童も目標を持って、意欲的に取り組むことができた。

3 今後の取組

来年度の研究主題は、美和町の3校合同で、「すべての児童生徒が意欲的に取り組み、基礎基本を身に付ける授業づくり」である。これは、3校とも個別支援が必要な児童生徒の割合が高く、個の実態に応じた支援を行うことで、全体の学力向上が望めるからである。

また、知識・技能の定着を図るために、モジュール学習を進める教師のスキルを高め、ていくとともに、授業公開や交換授業を通して、授業改善につなげていきたい。

令和元年度 研究同人

池本 武志	福江 大幸	藤井 昭則	池田 康成
永富 幸恵	山根さゆみ	西本 泰之	八道 昌恵
園畠 真美	境 ほのか	堤 姫璃	山岡 昭三
大溝 誠子	清水 譲二	長津 勝磨	河田 純子